

新・社会福祉士養成カリキュラムにおける  
ソーシャルワーク実習教育に関する実態調査報告書

2025年9月

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟

実習委員会

## 目次

第Ⅰ部 本調査の概要.....	1
1. 調査目的	
2. 調査方法	
3. 倫理的配慮	
第Ⅱ部 本調査の結果.....	2
1. 養成校・機関 .....	2
2. 実習体制 .....	3
3. 実習教育 .....	5
資料	
調査票 .....	12

## 第 I 部 本調査の概要

### 1. 調査目的

2021 年度に開始された新・社会福祉士養成カリキュラムは、2024 年度にすべての養成校・機関において完成年度を迎えた。この段階で、これまでの成果や課題について把握したうえで、未来を見据えた今後のソーシャルワーク実習教育のあり方について検討する必要があると考えられる。

そこで、日本ソーシャルワーク教育学校連盟の実習委員会において、ソーシャルワーク実習教育の課題を含む実態の把握を目的としてアンケート調査を実施した。

### 2. 調査方法

#### (1) 調査対象者

本調査の対象者は、日本ソーシャルワーク教育学校連盟会員校の実習担当教員で、実習委員長等の社会福祉士の実習教育を統括している教員を対象とした。

#### (2) 調査内容

ソーシャルワーク実習教育の実態を把握するため、組織の種類、所在地域、実習体制に関する設問とともに、厚生労働省から提示されている「ソーシャルワーク実習指導」および「ソーシャルワーク実習」の「教育に含むべき事項」に関する実施状況を把握する設問を設けた。また、ソーシャルワーク実習教育における課題と実習施設との協働に関する課題について把握する設問を設けた。加えて、ソーシャルワーク実習教育の成果については、自由記述で把握した。調査依頼状および調査票は資料参照。

#### (3) 調査の依頼方法

日本ソーシャルワーク教育学校連盟全正会員校のうち、社会福祉士養成課程をもつ会員校へ電子メールで依頼文および調査用 web サイト URL を送付し、回答を依頼した。

#### (4) 調査の回答方法

調査の目的、個人情報及び調査結果等の取扱い、調査方法等を示した調査用 Web サイト Survey Monkey（サーベイモンキー）を用いた Web アンケート調査への匿名での回答入力を依頼し、調査協力を同意いただいたうえでご回答いただいた。

#### (5) 調査期間

調査は 2025 年 1 月 20 日（月）～2025 年 3 月 15 日（土）に実施した。

### 3. 倫理的配慮

本調査の実施にあたっては、日本ソーシャルワーク教育学校連盟における研究倫理審査にて、2024 年 12 月 12 日に承認（承認番号 2024-02）を得ている。

## 第Ⅱ部 本調査の結果

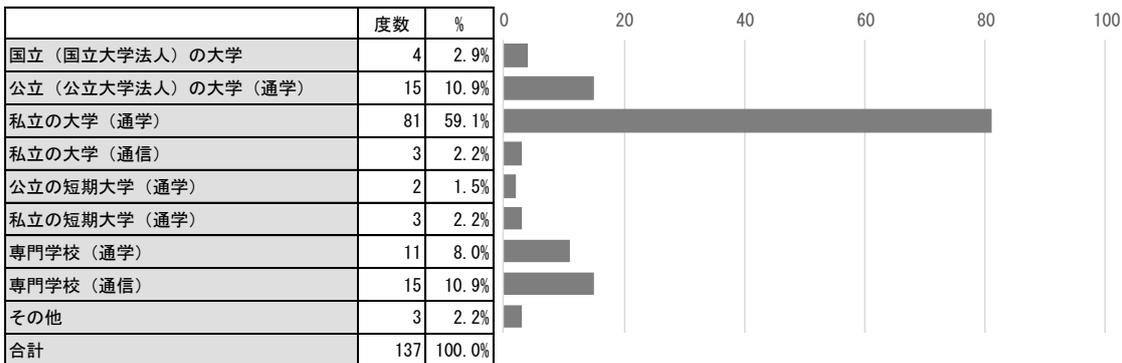
### 1. 養成校・機関

日本ソーシャルワーク教育学校連盟の正会員校 248 校（2025 年 1 月現在）のうち、137 校（回収率 55.2%）から回答を得た。しかしながら、通学と通信などのように、社会福祉士の養成課程が複数ある場合には、それぞれの課程ごとの回答を求めているため、実際の回収率はこれよりも低いものだと考えられる。

#### (1) 所属組織の種類

回答者が所属している組織の種類の内 6 割近くが通学の私立大学であり、次に通学の公立大学（10.9%）、通信の専門学校（10.9%）となっている。日本ソーシャルワーク教育学校連盟会員校の種類の内割とほぼ同じであるため、会員校の実態を表していると考えられる。

問 1. 回答者が所属している組織の種類別 (N=137)



一般養成施設（通信・1年6か月、1年コース）、短期養成施設（9か月コース）

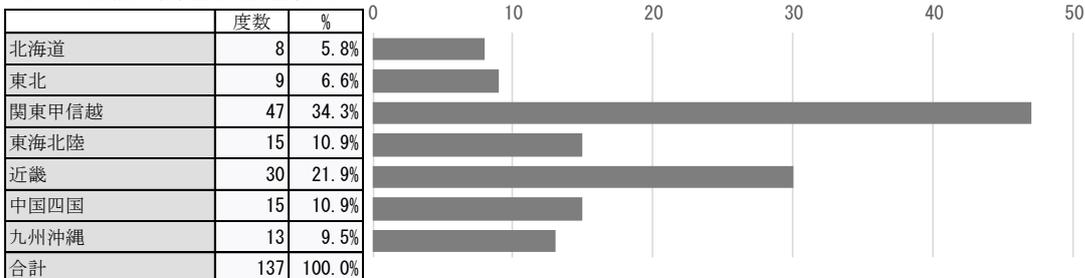
一般養成施設（通信）

公益財団法人が運営する社会福祉士養成所

#### (2) 所属組織の所在地

回答者が所属している組織の所在地の内 34.3%が関東甲信越となり、続いて近畿（21.9%）となっている。この割合も日本ソーシャルワーク教育学校連盟会員校の分布とほぼ同じ傾向であった。

問 2. 組織が所在する地域 (N=137)

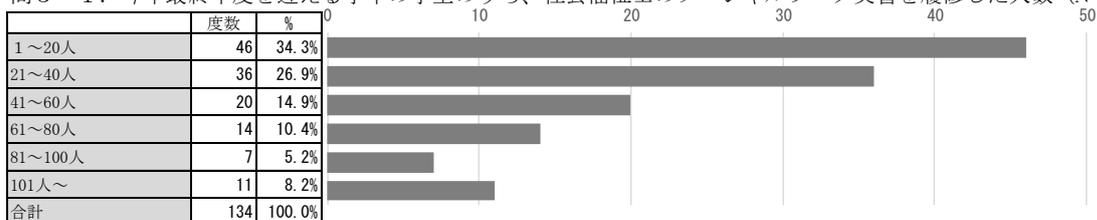


## 2. 実習体制

### (1) ソーシャルワーク実習履修者数

2024 年度に最終年度を迎える学年の学生のうち、社会福祉士のソーシャルワーク実習を履修した学生数は、1～20 人が最も多く 46 校 (34.3%)、続いて 21～40 人が 36 校 (26.9%) となっており、小規模で社会福祉士を養成している様子が伺える。一方で、101 人～が 11 校あり、大人数での養成も一定数ある。なお、4 年制大学の場合には 2021 年度入学生を、2 年制専門学校の場合には 2023 年度入学生を想定しており、実習を実施した年度は問うていない。

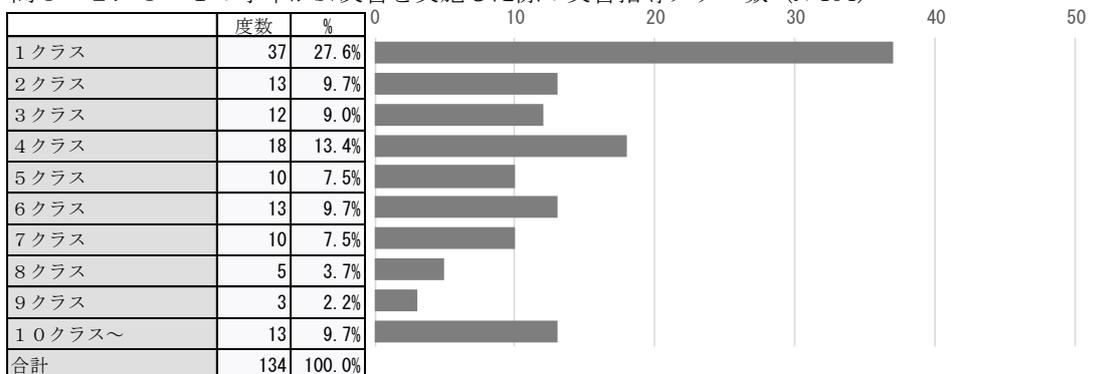
問 3-1. 今年最終年度を迎える学年の学生のうち、社会福祉士のソーシャルワーク実習を履修した人数 (N=134)



### (2) クラス数

前述の 2024 年度に最終年度を迎える学生のソーシャルワーク実習指導のクラス数は、1 クラスが最も多いが、20 名以内で実習指導を実施する規定となっているため、大規模校では 10 クラス以上も 9.7%見られる。

問 3-2. 3-1 の学年が SW 実習を実施した際の実習指導クラス数 (N=134)



### (3) ソーシャルワーク実習指導担当教員数

多くの養成校・機関において、ソーシャルワーク実習指導は専任教員が担当していることが明らかになったが、学生数の多い養成校においては、非常勤教員もソーシャルワーク実習指導を担当するとともに、巡回のみを担当する教員もいることがわかる。

ソーシャルワーク実習のみを担当する実習助教は、全体で 22 人とどまった。一方、このような助教以外で、ソーシャルワーク実習を担当している助教は 53 人となり、助教がさまざまな業務を担当しながら、ソーシャルワーク実習も担当している様子が伺えた。

問4. SW実習指導を担当した教員平均人数 (N=134)

SW実習指導の クラス数	専任講師の 平均人数	非常勤講師の 平均人数	巡回のみを担当する 教員の平均人数 (左記を除く)
1クラス	2.65	0.66	0.84
2クラス	3.00	0.50	1.17
3クラス	3.58	0.73	0.64
4クラス	4.28	0.67	1.15
5クラス	6.70	0.89	3.62
6クラス	6.08	1.33	0.55
7クラス	7.70	1.40	0.30
8クラス	7.60	1.00	5.00
9クラス	6.33	3.33	1.33
10クラス	8.33	5.67	0.00
11クラス	8.00	3.00	0.00
12クラス	10.00	2.00	0.00
13クラス	11.00	1.00	8.00
14クラス	11.00	3.50	0.00
15クラス	12.00	8.00	8.50
17クラス	18.00	0.00	5.00
22クラス	18.00	0.00	157.00
23クラス	3.00	16.00	0.00
合計	5.04	1.27	2.78

(4) ソーシャルワーク実習の合計時間数

ひとりの学生が行うソーシャルワーク実習の合計時間数は、97.7%が240時間であったが、270時間が2校、250時間と272時間がそれぞれ1校あった。

(5) ソーシャルワーク実習の施設数

97.8%の養成校において、ひとりの学生がソーシャルワーク実習を行うのは、機能の異なる2カ所の実習施設であるが、3養成校のみ3カ所の実習施設で実習を実施していた。

(6) ソーシャルワーク実習の実施学年と時間数

1ヶ所目のソーシャルワーク実習を2年生で60時間行い、2ヶ所目の実習を3年生で180時間実施するパターンが最も多いが、1ヶ所目と2ヶ所目のソーシャルワーク実習を3年生で行うパターンも一定数見られる。また、1年生で1ヶ所目の実習を行う養成校も14.2%見られた。このようなソーシャルワーク実習の実施については、原則すべての学生で同一に実施しているようであるが、学生によって異なるという回答も一定数あった。

3ヶ所目の実習を行なっている養成校を除く130校において、1ヶ所目と2ヶ所目の実習時間を分析すると、①1カ所目が60時間、2カ所目が180時間が最多の58校、②1カ所目が180時間、2カ所目が60時間が27校、③1カ所目が61～90時間、2カ所目が180時間が15件で、合計90校となっており、およそ70%を占めている。

1カ所目実習の時間数と2カ所目実習の時間数のクロス表

	【設定なし】	46～60時間	61～90時間	180時間	180時間～	合計
【設定なし】	4	0	0	0	0	4
～30時間	0	0	0	1	0	1
31～45時間	0	0	0	0	5	5
45～60時間	0	0	0	58	4	62
61～90時間	0	0	0	15	6	21
180時間	0	27	8	0	0	35
181時間～	0	1	1	0	0	2
合計	4	28	9	74	15	130

4年制大学の通学による養成校のみに限定して分析すると、1カ所目が60時間、2カ所目が180時間という養成校が46件となっており、約半分の大学において用いられている体系であることが分かる。次に多いのは1カ所目が61～90時間で2カ所目が180時間、1カ所目が180時間で2カ所目が60時間である。これらを合計すると74件となり、75%を占める結果となった。

1カ所目実習の時間数と2カ所目実習の時間数のクロス表（4年制大学のみ）

	【設定なし】	46～60時間	61～90時間	180時間	180時間～	合計
【設定なし】	2	0	0	0	0	2
～30時間	0	0	0	1	0	1
31～45時間	0	0	0	0	4	4
45～60時間	0	0	0	4	2	4
61～90時間	0	0	0	1	4	1
180時間	0	1	6	0	0	2
181時間～	0	1	1	0	0	2
合計	2	1	7	6	1	9

### 3. 実習教育

#### (1) 「ソーシャルワーク実習指導」の「教育に含むべき事項」の実施状況

「ソーシャルワーク実習指導」の「教育に含むべき事項」のほとんどについて指導が実施されていると言えるが、「実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成及び実習後の評価」については、47養成校（36.2%）が「あまりできていない」「まったくできていない」と回答した。また、「多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習」についても、36養成校（27.5%）で実施できていなかった。機能の異なる2ヶ所以上の実習を実施することによって、現場体験学習や見学学習までは手が回っていないのではないかと考えられる。

問8. ソーシャルワーク実習指導の「教育に含むべき事項」における指導の実施状況

	とても できている	まあ できている	あまり できていない	まったく できていない	合計	0%	20%	40%	60%	80%	100%
① 実習及び実習指導の意義（スーパービジョン含む。）	54	75	2	0	131	41.2	57.3	1.5			
② 多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習	37	58	28	8	131	28.2	44.3	21.4	8.1		
③ 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解	42	79	10	0	131	32.1	60.3	7.6			
④ 実習先で関わる他の職種の種類や業務に関する基本的な理解	34	76	22	0	132	25.8	57.6	16.7			
⑤ 実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解	46	80	6	0	132	34.8	60.6	4.5			
⑥ 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解	69	58	4	0	131	52.7	44.3	3.1			
⑦ 実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解	39	83	9	0	131	29.8	63.4	6.9			
⑧ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成及び実習後の評価	26	57	44	3	130	20.0	43.8	33.8	2.3		
⑨ 巡回指導	83	42	0	0	125	66.4	33.6				
⑩ 実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	77	50	4	0	131	58.8	38.2	3.1			
⑪ 実習の評価及び全体総括会	76	48	6	1	131	58.0	36.6	4.6			

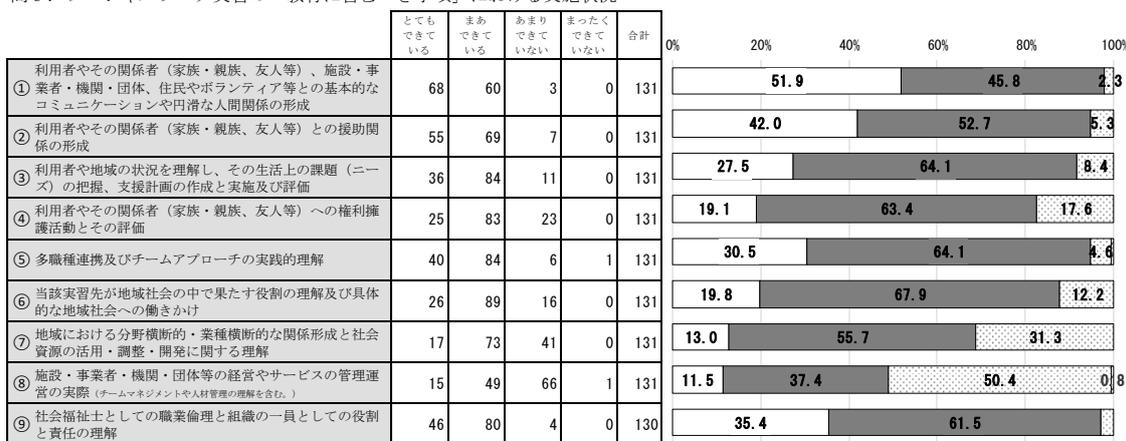
#### (2) 「ソーシャルワーク実習」の「教育に含むべき事項」の実施状況

「ソーシャルワーク実習」の「教育に含むべき事項」については、実習施設の実習プログラムとしてどの程度実施されているかについて尋ねているため、それぞれの実習施設によって多様であるとともに、実態を十分に把握しているとは限らないが、主に新カリキュラムにおいて新たに追加された「教育に含むべき事項」について「あまりできていない」「まったくできていない」の回答が多い傾向が確認できる。

最もできていないと考えているのが、「ネゴシエーションの実践的理解」であり、77 (59.2%) の養成校が「あまりできていない」「まったくできていない」と回答している。同様に、「ソーシャルアクションの実践的理解」について76校 (58.9%)、「施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 (チームマネジメントや人材管理の理解を含む。)」が67校 (51.1%) となっている。

ソーシャルワーク実習に関する意見や要望等を自由に記述する設問においても、そもそも実習指導者にマクロ視点がなく、ベテランの社会福祉士等が担うような内容が「教育に含むべき事項」にあり、現実的ではないといった指摘があった。

問9. ソーシャルワーク実習の「教育に含むべき事項」における実施状況



問9. ソーシャルワーク実習の「教育に含むべき事項⑩」における実施状況



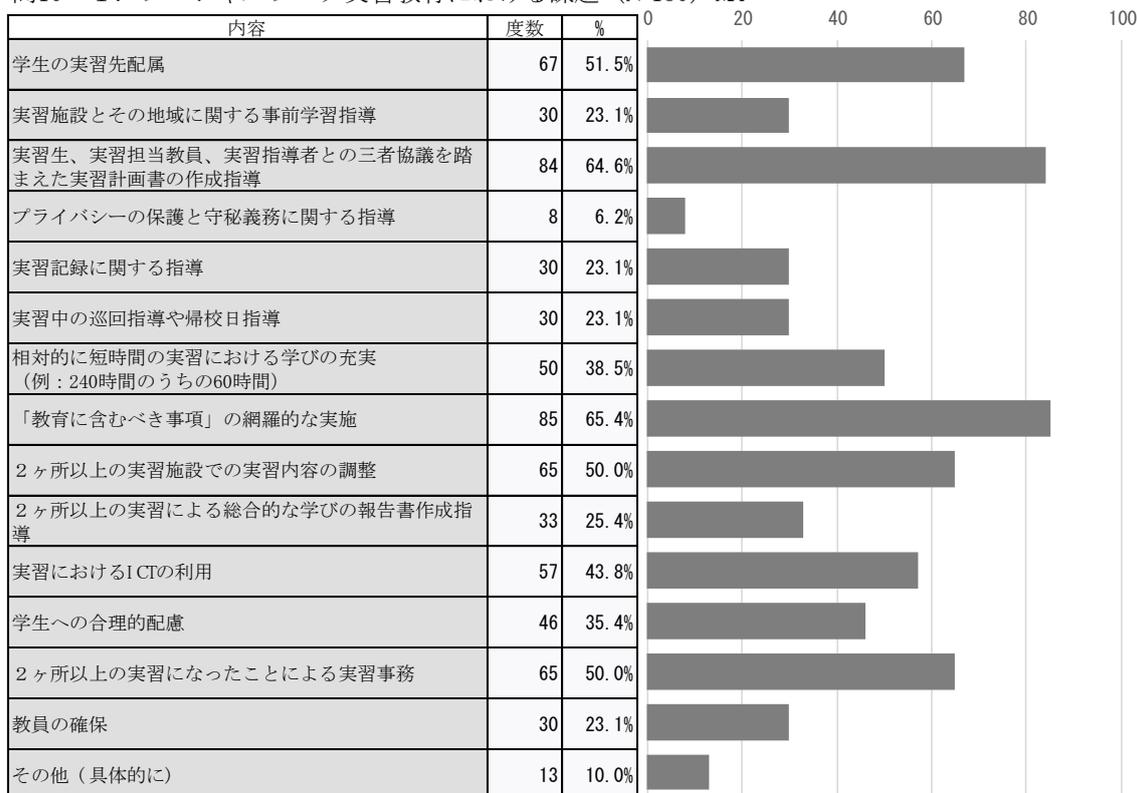
### (3) ソーシャルワーク実習教育の課題

ソーシャルワーク実習教育において課題だと感じていることについては、「『教育に含むべき事項』の網羅的な実施」が85校、「実習生、実習担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の作成指導」が84校、「学生の実習先配属」67校となっている。これらは、ソーシャルワーク実習教育の課題の中でも、最も重要な課題だと感じていることが明らかになった。

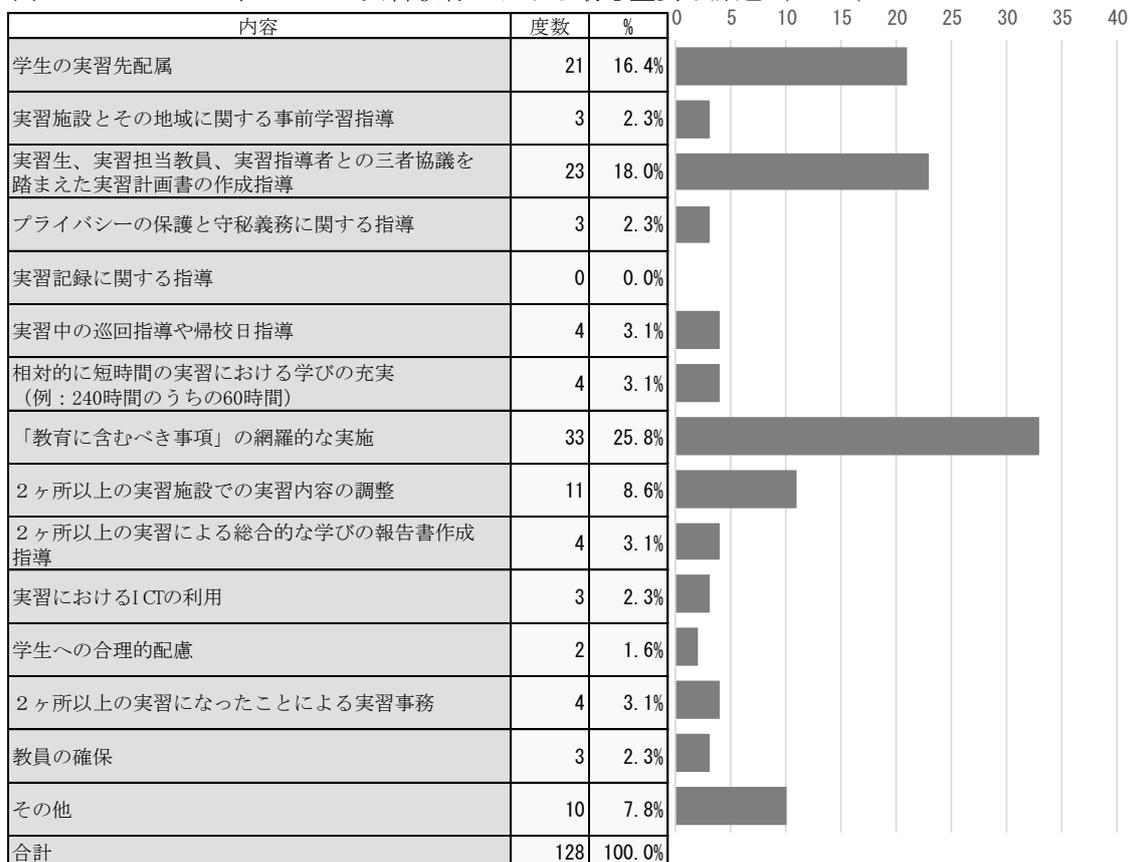
その他の課題としては、2ヶ所の実習施設での実習とその事前および事後指導の時間割の組み方といった実施体制、実習施設の実習指導者の意識やモチベーションの差、実習経費の学生負担、学生の主体的な学びの欠如、実習担当教員間の考え方や学生指導等の違いなどの記述が確認された。

ソーシャルワーク実習に関する意見や要望等を自由に記述する設問においても、2ヶ所の実習における学びの総括の難しさや、機能の異なる2ヶ所以上の実習施設での実習が求められることによる実習事務の負担等が見られた。

問10-1. ソーシャルワーク実習教育における課題 (N=130) MA



問10-2. ソーシャルワーク実習教育における最も重要な課題 (N=128)

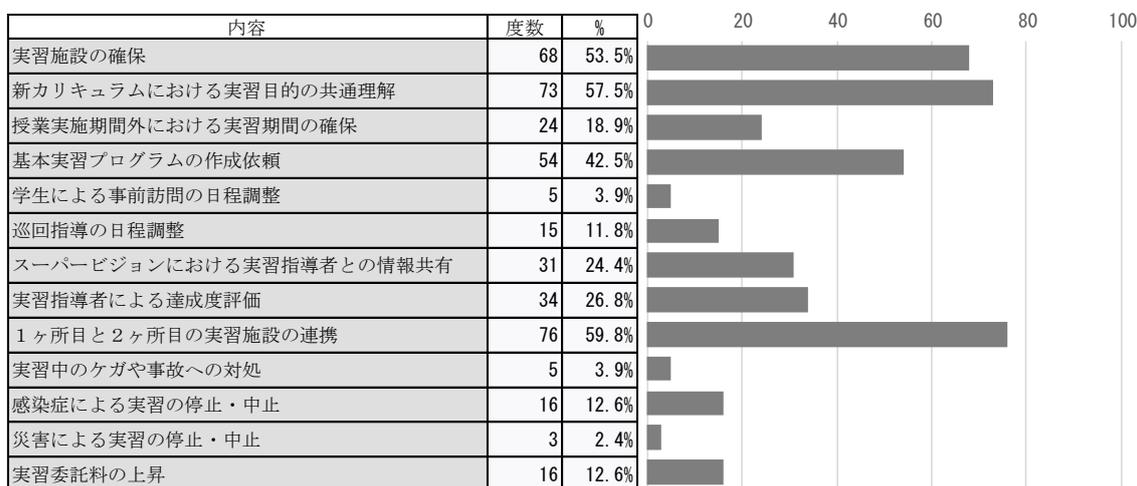


#### (4) 実習施設との協働における課題

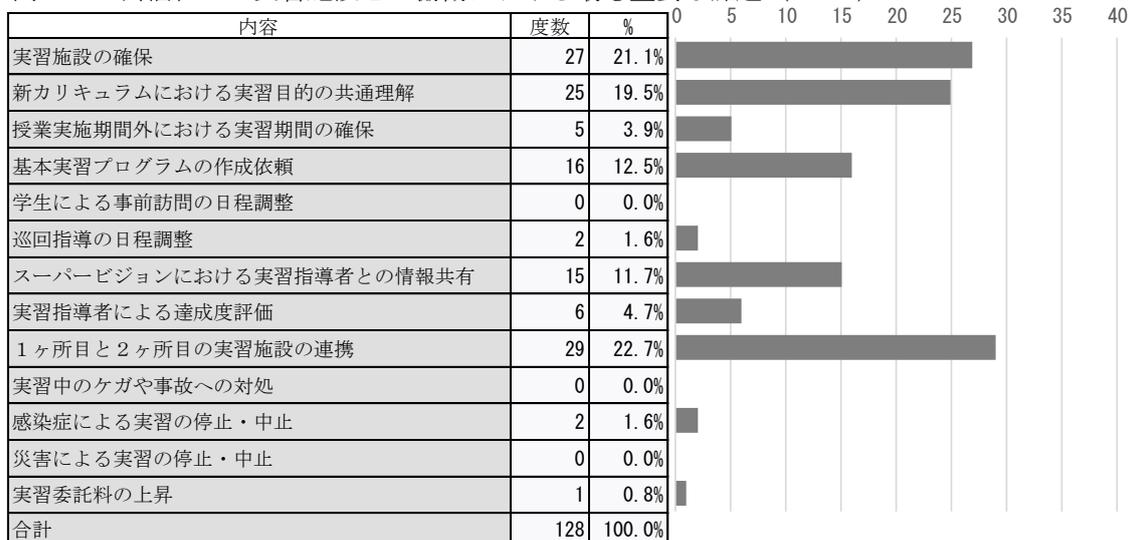
実習施設との協働において課題だと感じていることについては、76校 (59.8%) が「1ヶ所目と2ヶ所目の実習施設の連携」を課題だと感じ、続いて「新カリキュラムにおける実習目的の共通理解」を73校が、「実習施設の確保」を68校、「基本実習プログラムの作成依頼」54校となった。これらは、実習施設との協働において最も重要な課題だと感じている内容であったが、加えて「スーパービジョンによる実習指導者との情報共有」も15校 (11.7%) で見られた。

ソーシャルワーク実習に関する意見や要望等を自由に記述する設問においても、実習時間数が増加したことにより、実習施設の負担が増え、これまで受け入れてくれていた実習施設での実習が断られている状況が見られた。また、養成校ごとに実習実施時期や時間数等が異なることから、さらに実習施設の負担が増大し、養成校と実習施設との協働の妨げになっているという意見もあった。人材不足が課題となっている現状において、学生リクルートのひとつの機会として実習を捉えている実習施設については、社会人の受け入れを断られるとのことであった。

問11-1. 社会福祉士の実習施設との協働における課題 (N=127) MA



問11-2 会福祉士の実習施設との協働における最も重要な課題 (N=128)



## (5) ソーシャルワーク実習の成果

回答者のうち、64校から新・社会福祉士養成カリキュラムにおけるソーシャルワーク実習の成果について自由記述があった。一部課題だと考えられる内容や、成果を感じられないといった意見があったため、それらを除いた成果に関する自由記述を分析したところ、主に4つに類型化できた。

### ① 機能の異なる2ヶ所以上の実習によるジェネラリスト視点の習得

最も多くの記述があったのが、機能の異なる2ヶ所以上の実習施設で実習を行うことによって、ミクロレベルからマクロレベルまでのソーシャルワーク実践を体験することができ、ジェネラリストとしての視点を養える実習となったというものであった。これは、多様な社会福祉士の実践現場を理解する機会にもなっており、ソーシャルワークとしての普遍性ととも、施設ごとの個別性も学んでいるようである。

#### 主な自由記述

- ・「2ヶ所（別種）実習となり、ジェネラリストとしての視点を養える実習環境となった。」
- ・「機能・分野の異なる2か所の実習を経験することで、どの分野にも通底する共通基盤の理解がより進むようになった。」
- ・「実習箇所が2箇所になったことで、異なる施設・機関の機能、異なる利用者の理解等、ジェネラリストとしての学びができやすくなったと思われる。」
- ・「従来はミクロレベルでの理解で終わっていることが大半であったと考えるが、メゾレベルへの理解まで深めていることが学生たちの総括から実感できる。」
- ・「2施設以上の実習となったことで、ソーシャルワークとしての普遍性と、施設ごとの個別性・独自性を学べるようになった。」

### ② 段階的な実習による計画的な学び

基礎的な1ヶ所目の実習を終えて振り返りを行なったうえで、2ヶ所目の実習を行うことによって、計画的な学びができるようになったようである。また、短時間の実習を終えてから学生が自身の特性や資格取得を目指す動機の見直しができる機会にもなっているようである。

#### 主な自由記述

- ・「前半に実習のイメージが獲得でき、その結果、後半の実習での実習計画の立案がスムーズに進んだことが成果である。」
- ・「1回目の実習で実習のペースがつかめるので、2回目がスムーズに行えるように思います。」
- ・「目的を分けることにより、ステップを踏んだ実習カリキュラムとすることができ、より専門的な部分に踏み込んだ実習が可能となった。」
- ・「最初に行う短時間（60時間）の実習において、学生が自身の適性や資格取得を目指す動機を見直すことができる。」

### ③ 実習生の学びや意欲の向上

複数の実習施設で実習を行うことで、学生の学びが深まっているようであった。実習施設においてロールモデルとなる実習指導者等に会うことで、社会福祉士としての将来イメージを持ち、資格取得および就職への意欲が高まっている様子が見られている。

#### 主な自由記述

- ・「実習先が2か所になったことで、学生の機関に対する理解、多様なフィールドで多様な形で活躍する社会福祉士の理解が深まったと思う。」
- ・「実習生が学ぶべき事項を意識して実習を行っていること。」
- ・「2か所以上の施設機関での実習になったことから、多くの利用者や職員さん、実習指導者との出会いから学びの機会が広がったという感じます。」
- ・「複数の実習先で、福祉職の先輩に出会うことができ、目標となる人物像に出会う可能性も高くなった。」

### ④ 実習施設における実習指導の質の向上

新カリキュラムを実施するにあたり、実習指導者に対して説明会や講習会等を行うことによって、実習指導者の意識が高まり、実習指導の質も高まったようである。

#### 主な自由記述

- ・「実習指導者の意識が高まったと感じる。」
- ・「時間数が伸びたことにより、実習プログラムが充実した。地域におけるネットワーク会議への参加や訪問の同行の機会などが増えた。」
- ・「以前よりは、入所施設等に置いて、「介護」ではなく「ソーシャルワーク」実習ができるようになってきた」

### (6) ソーシャルワーク実習に関する意見や要望等

回答者のうち、72校から新・社会福祉士養成カリキュラムにおけるソーシャルワーク実習に関する意見や要望等について自由記述があった。課題に関する意見については、前述しているため、それ以外の主な意見や要望について以下に示す。

#### ① 社会福祉士取得希望者の減少

社会福祉士国家資格の取得を希望する学生が減少している現状において、ソーシャルワーク実習時間数を増加させることが適切だったのかという意見があった。実際、時間数の増加によって、社会人の受講は減少しているようである。

だが一方で、実習・演習・講義の循環的学びを充実させるためにも、ソーシャルワーク実習時間の更なる増加が必要ではないかといった意見も見られた。

#### ② 実習施設の確保に向けた対応

受け入れをしてくれる実習施設を増やすために、社会福祉法人等の評価や単価計算において、実習受け入れ件数を反映する等の対策が必要だといった意見が見られた。また、行政機関での実習受

け入れが少ない現状に対して、日本ソーシャルワーク教育学校連盟からの行政機関への実習協力依頼等の対応の必要性も述べられていた。

実習施設によっては、実習指導者がいないために実習を引き受けられない状況があるため、実習指導者の養成に尽力する必要があるとの意見とともに、60時間等の相対的に短時間の実習に関しては実習指導者の要件を緩和する必要があるといった意見も見られた。

### ③ 機能の異なる2ヶ所以上の実習施設の運用

明確な将来展望のある学生にとっては、同じ機能の実習施設で240時間以上の実習を行うことが有意義なこともあるので、機能の異なる実習施設での実習にこだわる必要はないのではないかといった意見や、多様な事業を展開している法人については、同一の法人内で機能の異なる2ヶ所以上の実習施設として実習はできるが、契約等が煩雑になるため、このような法人については多様な機能の実習施設で実習が実施できることを前提として一つの法人での240時間以上の実習を認めて欲しい等の要望もあった。

謝辞 本調査にご協力いただきました日本ソーシャルワーク教育学校連盟会員校の実習担当教員の皆さまに心から感謝の意を表します。

## 新・社会福祉士養成カリキュラムにおける ソーシャルワーク実習教育に関する実態調査

### 調査の目的と倫理的配慮

ソーシャルワーク実習の拡充がなされた新・社会福祉士養成カリキュラムは、今年度にすべての養成校・機関において完成年度を迎えます。そこで、更なるソーシャルワーク実習教育の充実に向け、ソーシャルワーク実習教育の課題を含む実態の把握を目的とした調査を実施いたします。

本調査は、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟の研究倫理審査にて承認を得て実施いたします。

### 個人情報及び調査結果等の取扱い

- 回答は匿名でさせていただきます。
- 回答結果は統計的に処理され、調査報告書の作成や学会発表、研究論文作成など調査研究の目的のみに用います（公表された結果から個人・法人が特定されることはありません）。
- 本調査により収集したデータは、集計ソフトを介してファイル保存します。
- 当該ファイルは、本連盟事務局においてインターネットから独立したサーバーに保管し、研究終了後最低10年間保管します。
- 保管期間が10年を超えた時点で、データの完全消去等により機密処分を行います。

### 調査方法等

- 調査協力は任意です。ご自身の意思に基づいて協力の可否をお決めください。
- 回答しない場合にも一切の不利益を受けることはありません。
- 調査回答に要する時間はおよそ15分です。
- 本調査にご協力をいただける場合、パソコンまたはスマートフォンにて調査用webサイトにアクセスし、ご回答ください。回答をもって調査協力に同意いただいたものとさせていただきます。

### 【本調査にご回答いただきたい方】

実習担当教員代表者（実習委員長等の社会福祉士の実習教育を統括している教員）

※養成校に通学課程と通信課程が設置されている場合、課程ごとにご回答くださいますようお願い申し上げます。

### 【調査の実施期間】

2025年1月20日～2025年3月15日

### 【本調査に関するお問合せ】

本調査に関するお問い合わせは、下記の専用お問合せフォームをご利用ください。

・調査お問合せ専用フォーム：  
<https://pro.form-mailer.jp/fms/e36c0022324062>

・調査事務局：  
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟事務局  
担当：飯塚・志田

〒108-0075 東京都港区港南4-7-8 都漁連水産会館6階  
Tel:03-5495-7242 Fax:03-5495-7219

\* 本調査の目的を理解し、調査協力に同意いただけますか。あてはまるもの1つを選択してください。

- 同意する（質問項目に進みます）  
 同意しない（調査終了ページに進みます）

新・社会福祉士養成カリキュラムにおける  
ソーシャルワーク実習教育に関する実態調査

I. 養成校・機関について

【本アンケートフォームの操作方法について】

■前に戻って回答を訂正したい場合は、各ページの下部にある「前へ」ボタンを押してください。

■調査票の最終ページの「完了」ボタンを押すと、再び本アンケートフォームを開くことができなくなりますので、ご注意ください。

問1. あなたが現在所属している組織の種類は、次のうちどれに当てはまりますか。(1つ選択)

- 国立(国立大学法人)の大学
- 公立(公立大学法人)の大学(通学)
- 公立(公立大学法人)の大学(通信)
- 私立の大学(通学)
- 私立の大学(通信)
- 公立の短期大学(通学)
- 公立の短期大学(通信)
- 私立の短期大学(通学)
- 私立の短期大学(通信)
- 専門学校(通学)
- 専門学校(通信)
- その他(具体的に)

問2. あなたが所属している組織は、次のうちどの地域に所在していますか。(1つ選択)

- 北海道
- 東北
- 関東甲信越
- 東海北陸
- 近畿
- 中国四国
- 九州沖縄

新・社会福祉士養成カリキュラムにおける  
ソーシャルワーク実習教育に関する実態調査

Ⅱ．実習体制について

問3 - 1．今年最終年度を迎える学年の学生のうち、社会福祉士のソーシャルワーク実習を履修した人数を教えてください。（実習を実施した年度は問いません）

【回答学年の例】

※ 4年制大学の場合：2021年度入学生を想定

※ 2年制専門学校の場合：2023年度入学生を想定

問3 - 2．上記で回答した学年のソーシャルワーク実習指導は何クラスで開講しましたか。

問4 - 1．社会福祉士のソーシャルワーク実習指導を担当している教員数（2024年度）は何人ですか。

それぞれあてはまる数値を入力してください。

専任

非常勤

巡回のみを担当する教員  
（上記の専任と非常勤以外）

問4 - 2．実習助教と助教の数（2024年度）は何人ですか。それぞれあてはまる数値を入力してください。

※いない場合はそれぞれ「0」を入力してください。

実習助教

（SW実習のみを担当している助教）

助教

（実習助教以外でSW実習を担当している助教）

問5．ひとりの学生が行う社会福祉士のソーシャルワーク実習の合計時間数を記入してください。

【例】

180時間実習 + 60時間実習の場合：**240**

200時間実習 + 60時間実習の場合：**260**

問6．ひとりの学生が行う社会福祉士のソーシャルワーク実習の施設数は何ヶ所ですか。（1つ選択）

※例外は考慮せず、最も一般的な履修パターンを回答してください。

- 機能の異なる2ヶ所
- 機能の異なる3ヶ所
- その他(具体的に)

問7．1カ所目と2カ所目等の実習施設での実習の「実施学年」、「時間数」、「対象」をそれぞれ選択してください。

※2カ所目の実習までの場合、3カ所目の実習に関してはそれぞれ【設定なし】を選択してください。

※対象学生については、主に順番に関してです。学生によって1カ所目、2カ所目の実習時間数の順番が前後する場合は「学生によって異なる」を選択してください。

	実施学年	時間時間数	対象学生
1カ所目の実習	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2カ所目の実習	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
3カ所目の実習	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

新・社会福祉士養成カリキュラムにおける  
ソーシャルワーク実習教育に関する実態調査

Ⅲ．実習教育について

問8．ソーシャルワーク実習指導の「教育に含むべき事項」における、指導の実施状況についてお伺いします。それぞれあてまるもの1つを選択してください。

	とても できている	まあ できている	あまり できていない	まったく できていない
①実習及び実習指導の 意義（スーパービジョ ン含む。）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
②多様な施設や事業所 における現場体験学習 や見学実習	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
③実際に実習を行う実 習分野（利用者理解含 む。）と施設・機関、 地域社会等に関する基 本的な理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
④実習先で関わる他の 職種の専門性や業務に 関する基本的な理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑤実習先で必要とされ るソーシャルワークの 価値規範と倫理・知識 及び技術に関する理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問8．続き。それぞれあてまるもの1つを選択してください。

	とても できている	まあ できている	あまり できていない	まったく できていない
⑥実習における個人の プライバシーの保護と 守秘義務等の理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑦実習記録への記録内 容及び記録方法に関す る理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑧実習生、実習担当教 員、実習先の実習指導 者との三者協議を踏ま えた実習計画の作成及 び実習後の評価	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑨巡回指導	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑩実習体験や実習記録 を踏まえた課題の整理 と実習総括レポートの 作成	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑪実習の評価及び全体 総括会	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問9．ソーシャルワーク実習の「教育に含むべき事項」について、実習施設の実習プログラムとしてどの程度実施されていると思いますか。

それぞれあてはまるもの1つを選択してください。

	とても できている	まあ できている	あまり できていない	まったく できていない
①利用者やその関係者 (家族・親族、友人 等)、施設・事業者・ 機関・団体、住民やボ ランティア等との基本 的なコミュニケーションや円滑な人間関係の 形成	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
②利用者やその関係者 (家族・親族、友人 等)との援助関係の形 成	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
③利用者や地域の状況 を理解し、その生活上 の課題(ニーズ)の把 握、支援計画の作成と 実施及び評価	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
④利用者やその関係者 (家族・親族、友人 等)への権利擁護活動 とその評価	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑤多職種連携及びチー ムアプローチの実践的 理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問9．続き①

それぞれあてはまるもの1つを選択してください。

	とても できている	まあ できている	あまり できていない	まったく できていない
⑥当該実習先が地域社 会の中で果たす役割の 理解及び具体的な地域 社会への働きかけ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑦地域における分野横 断的・業種横断的な関 係形成と社会資源の活 用・調整・開発に関す る理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑧施設・事業者・機 関・団体等の経営やサ ービスの管理運営の実 際(チームマネジメン トや人材管理の理解を 含む。)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑨社会福祉士としての 職業倫理と組織の一員 としての役割と責任の 理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問9 . 続き②

それぞれあてはまるもの1つを選択してください。

	とても できている	まあ できている	あまり できていない	まったく できていない
⑩-1 アウトリーチの実践的 理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑩-2 ネットワーキングの実 践的理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑩-3 コーディネーションの 実践的理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑩-4 ネゴシエーションの実 践的理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑩-5 ファシリテーションの 実践的理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑩-6 プレゼンテーションの 実践的理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
⑩-7 ソーシャルアクション の実践的理解	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問10-1 . ソーシャルワーク実習教育において課題だと感じていることは何ですか。次のうちあてはまるものすべてを選択してください。

- 学生の実習先配属
- 実習施設とその地域に関する事前学習指導
- 実習生、実習担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の作成指導
- プライバシーの保護と守秘義務に関する指導
- 実習記録に関する指導
- 実習中の巡回指導や帰校日指導
- 相対的に短時間の実習における学びの充実（例：240時間のうちの60時間）
- 「教育に含むべき事項」の網羅的な実施
- 2ヶ所以上の実習施設での実習内容の調整
- 2ヶ所以上の実習による総合的な学びの報告書作成指導
- 実習におけるICTの利用
- 学生への合理的配慮
- 2ヶ所以上の実習になったことによる実習事務
- 教員の確保
- その他（具体的に）

問10-2. ソーシャルワーク実習教育において最も重要な課題だと感じていることを1つ選択してください。

- 学生の実習先配属
- 実習施設とその地域に関する事前学習指導
- 実習生、実習担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の作成指導
- プライバシーの保護と守秘義務に関する指導
- 実習記録に関する指導
- 実習中の巡回指導や帰校日指導
- 相対的に短時間の実習における学びの充実（例：240時間のうちの60時間）
- 「教育に含むべき事項」の網羅的な実施
- 2ヶ所以上の実習施設での実習内容の調整
- 2ヶ所以上の実習による総合的な学びの報告書作成指導
- 実習におけるICTの利用
- 学生への合理的配慮
- 2ヶ所以上の実習になったことによる実習事務
- 教員の確保
- その他（具体的に）

問11-1. 社会福祉士の実習施設との協働において課題だと感じていることは何ですか。次のうちあてはまるものすべてを選択してください。

- 実習施設の確保
- 新カリキュラムにおける実習目的の共通理解
- 授業実施期間外における実習期間の確保
- 基本実習プログラムの作成依頼
- 学生による事前訪問の日程調整
- 巡回指導の日程調整
- スーパービジョンにおける実習指導者との情報共有
- 実習指導者による達成度評価
- 1ヶ所目と2ヶ所目の実習施設の連携
- 実習中のケガや事故への対処
- 感染症による実習の停止・中止
- 災害による実習の停止・中止
- 実習委託料の上昇

問11-2. 社会福祉士の実習施設との協働において最も重要な課題だと感じていることを1つ選択してください。

- 実習施設の確保
- 新カリキュラムにおける実習目的の共通理解
- 授業実施期間外における実習期間の確保
- 基本実習プログラムの作成依頼
- 学生による事前訪問の日程調整
- 巡回指導の日程調整
- スーパービジョンにおける実習指導者との情報共有
- 実習指導者による達成度評価
- 1ヶ所目と2ヶ所目の実習施設の連携
- 実習中のケガや事故への対処
- 感染症による実習の停止・中止
- 災害による実習の停止・中止
- 実習委託料の上昇

新・社会福祉士養成カリキュラムにおける  
ソーシャルワーク実習教育に関する実態調査

IV．自由記述

問12．新・社会福祉士養成カリキュラムにおけるソーシャルワーク実習の成果について自由に記載してください。

問13．新・社会福祉士養成カリキュラムにおけるソーシャルワーク実習に関する意見や要望等を自由に記載してください。

質問項目は以上です。

「完了」をクリックするとアンケートが終了します。

ご多忙のところアンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 実習委員会

委員長 高良 麻子 (法政大学)  
委員 石附 敬 (東北福祉大学)  
伊藤新一郎 (北星学園大学)  
鬼塚 香 (駒澤大学)  
添田 正揮 (日本福祉大学)  
高木 健志 (佛教大学)  
茶屋道拓哉 (鹿児島国際大学)  
西田 美香 (九州医療科学大学)  
畑 亮輔 (北星学園大学)  
渡辺 裕一 (武蔵野大学)  
旧委員 空閑 浩人 (同志社大学)  
中村 卓治 (広島文教大学)

新・社会福祉士養成カリキュラムにおける  
ソーシャルワーク実習教育に関する実態調査報告書

発行日 2025年9月

発行 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 実習委員会